



# 長崎大学の国際戦略

長崎大学は、1857年にオランダ人医師により設置された日本初の西洋式医学校を  
礎に、原爆被爆による壊滅の体験を経て1949年、新制大学として再構築された。

こうした経験や経緯を踏まえ「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育  
み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的發展に貢献すると  
の理念に基づき、教育研究の高度化及び個性化を図り、アジアを含む地域社会とともに  
歩みつつ、世界にとって不可欠な知の情報発信拠点であり続けるとともに、地域及び国  
際社会の発展に貢献できる人材を養成すること」を国立大学法人長崎大学の設置の理念  
としている。

これを受け「実践教育を重視した最高水準の教育を提供し、幅広い視野と豊かな教養  
及び深い専門知識を備え、課題探求能力及び創造力に富んだ人材を養成し、もって地域  
及び国際社会に貢献すること」を教育理念として掲げている。

これらの理念の下、地域に根ざし、かつ世界に存在感をもって貢献し得る人材を育成  
するとともに、その基盤となる研究を推進するため、ここに本学の国際戦略の基本方針  
並びに具体的施策を設定する。



## 国際社会で活躍する長崎大学ブランドのグローバル人材の育成

熱帯医学・感染症、放射線健康リスク、海洋資源・環境といった本学の個性でもありかつ最重要グローバル課題に関連する学術分野を中心として、国際機関との連携や海外フィールド研究を推進するほか、世界で活躍する人材育成を目指した新たな研究科を設置してきた。

こうした本学の特徴や教育理念を踏まえ、个性的かつ国際性あふれる長崎大学ブランドの世界を舞台に活躍する高度専門職業人を育成する。

真に課題が惹起している現場において、事象の本質を正確に理解し対応策を構築する構想力、そして実行するための決断力と行動力を有し、本学の歴史すなわち平和を希求し行動してきた本学固有の使命感に裏打ちされた長崎大学ブランドのグローバル人材の育成を目指す。

## 国際的な連携研究の推進

「地球と人間の健康と安全」に資する世界的教育研究拠点形成は、本学の国際的研究の推進目標である。学内の知を結集し、海外における教育研究拠点を整備し、国際連携研究を推進する。

現場に身を置き、現場に根ざした研究は、これまで本学の特色ある成果を生み出してきた。こうした研究を産官との連携の下にさらに押し進め、国際社会の平和的発展に資する研究成果を世界に発信する。

## 国際性豊かなキャンパスの実現

長崎が有する江戸時代から明治にかけての永きに渡る国際交流都市としての時間は、新しいものを受け入れる柔軟性や、それらを受け入れつつ自己の文化を醸成する気風、長崎人氣質を生み出した。

こうした地域や大学の特徴を踏まえ、長崎大学ブランドのグローバル人材育成の土壌として様々な文化背景や価値観を持つ「人々」が集い、議論し、夢を語り、新しい世界への扉を開く「場」としての国際性豊かなキャンパスの構築を目指す。

## 大学の国際化を推進するための支援基盤の整備

国際的に活躍する人材の育成や国際的連携研究を全学的に推進するとともに、学生や教員、職員の自発的な活動を支援するための基盤を整備する。

本学の学生や教職員が国際化を目指して活動する際に必要となる情報の収集・提供能力を充実させると同時に、分野横断的な支援を必要とする際に対応し得るような柔軟な支援体制を構築する。

## 国際社会で活躍する長崎大学ブランドのグローバル人材の育成

平成22年、育成すべき長崎大学ブランドのグローバル人材像の明確化を目的として、

- ① 研究者や専門職業人としての基盤的知識を有する、
- ② 自ら学び、考え、主張し、行動変革する素養を有する、
- ③ 環境や多様性の意義が認識できる、
- ④ 地球と地域社会及び将来世代に貢献する志を有する

という4項目から成る「長崎大学共有学士像」を設定・周知し、学士力保証に向けて教養教育改革、外国語教育改革を中心に様々な取り組みを開始した。

長崎大学のグローバル人材が備えるべき英語コミュニケーション能力として、TOEIC 750点を設定する。全学的な達成目標として、卒業生の20%以上が外国語カスタンダード（TOEIC 750点、TOEFL 550点）を満たすことを目指す。

これらを踏まえ、長崎大学ブランドのグローバル人材を育成するための具体的施策を以下に設定する。

### 1 コミュニケーション能力の向上

#### 1) 外国語運用能力の向上

- ① 教養教育における外国語教育の充実
  - 外国人を含む専任教員を拡充、教養教育改革による外国語の必修単位数を増加
- ② 専門教育における外国語運用能力の向上
  - 学部ごとに卒業時にこの基準を満たす学生数を設定
  - 英語による講義を増加、単位互換や2重学位制度の導入を推進
- ③ 外国語運用能力向上のための環境整備
  - CALLシステムの環境整備、留学情報の収集と提供

#### 2) 問題解決並びに情報発信能力の向上

- ① 教養教育におけるPBLを導入
- ② 専門教育における少人数教育を推進
- ③ アジア（ベトナムや中国）、ヨーロッパ（オランダ）、そしてアフリカ（ケニア）の海外教育研究拠点を活用した海外インターンシップを実施

## 2 本学の特色に根ざした知識の涵養

- 国際教育リエゾン機構を中心とした、長崎の地域の特色を生かしたオランダ、ポルトガル等とのプログラムを開発
- ライデン大学等、重点大学との新たな教育交流プログラムを開発

## 3 国際文化経験の機会の増加

- 国際教育リエゾン機構及び言語教育研究センターを活用した共修プログラム、サマー短期プログラム、短期研修プログラム等を開発
- 在学中の海外留学経験者900人の目標を達成

## 4 海外交流協定の実質化と拡大

- 交換留学の機会を拡充するために国際教育リエゾン機構や言語教育研究センターなどの交流協定締結支援体制を充実させ、学術交流協定の実質化を進めるとともに、交流協定締結校数を拡大する。

## 5 大学の国際化を推進するための外部資金の獲得

- ① 教育分野の国際化推進体制整備による組織横断的な国際教育リエゾン機構を設置
- ② 全学的プロジェクト策定のための事務の縦割りを超えた柔軟な支援体制を構築
- ③ 部局の情報収集機能の強化を目指した国際交流委員会を整備

## 国際的な連携研究の推進

「地球と人間の健康と安全」に資する研究を推進するため、国際連携研究戦略本部を設立し、ケニア、ベトナム、ベラルーシそして環東シナ海地域に研究拠点を設置、熱帯医学・感染症、放射線医療科学、海洋環境生物資源研究分野のフィールドに根ざした研究を行ってきた。

これらの拠点をさらに充実させ、突出した研究成果を世界に発信するとともに、志の高い研究者を育成する。

### 1 国際連携研究拠点の整備、充実

#### ① ケニア研究拠点の整備

- 既存研究推進のための実験設備の整備（BSL3+の設置）
- 歯学、工学、水産学分野の研究支援を通じた熱帯医学・感染症分野以外の研究を推進

#### ② ベトナム、ベラルーシ、環東シナ海研究拠点の整備

- 外部資金獲得等の支援を強化

#### ③ 新たな海外研究拠点の設置

#### ④ 海外教育研究拠点をを用いた若手研究者の育成

- 幅広い分野が参加する研究プロジェクトを策定
- 人材育成のための予算の確保と教育支援策を充実

### 2 国際連携研究戦略本部の機能強化

#### ① 幅広い支援を行うための組織の充実

- 貿易、法律ならびに生活支援に関する専門人材を確保
- コーディネーターの雇用を推進

#### ② 新たな国際連携研究の推進

- 学内の大型研究プロジェクトの情報収集機能を向上
- 人材育成、外部ネットワークの拡充による外部資金獲得支援機能を向上

## 国際性豊かなキャンパスの実現

これまで日本の最西端に位置する、すなわち成長著しいアジアに面するという地理的特性を生かし、アジアを中心とした留学生を受け入れてきた。

今後さらに海外から有為な若者を集めるためには、魅力ある教育機会を提供することが重要であり、国際的に魅力のある教育プログラムを開発することで本学の教育上の魅力を向上させる。

### 1 多様な留学生の確保

- 英語による講義やコースの増設、教養教育における外国語による講義の開設などによる日本語以外の言語による教育機会を拡大
- 英語による本学の情報発信の強化を通じた学術交流協定を利用した留学生受け入れを推進
- 外国人留学生数900人の目標を達成

### 2 優秀な留学生の確保

- 秋季入学や渡日前入試の実施などを検討
- 海外拠点整備により優秀な入学希望者を確保
- 地域連携による長崎留学生支援センターを通じた宿舍や奨学金の確保、キャリア開発支援を含めた生活支援を強化
- 海外留学生同窓会を設置

### 3 外国人教員の雇用増加と、日本人教員の海外での教育研究機会の推進

## 国際化を推進するための支援基盤の整備

これまで留学生の受け入れは留学生センター及び国際交流課、海外短期語学研修は大学教育機能開発センターの協力の下、留学生センター及び国際交流課、単位認定は教育支援課、G P等の外部資金は当該部局と総務企画課、研究企画課などが担当してきた。

しかし、いずれの事業・プログラムも従来の縦割りの組織で支援することは実質的に不可能となりつつあり、今後は複数の部局や部課にまたがる事案の増加が予想される。

このような状況に対応するため、教職員の育成を通じ、部局、部課を超えた大学の国際化に向けた支援基盤を整備する。

### 1 国際戦略推進のための全学的体制整備

#### ① 教育並びに研究分野の支援体制の確立

- 教育分野は国際教育リエゾン機構及び言語教育研究センター、研究分野は国際連携研究戦略本部が支援
- 外国語能力の高い職員の増員（新規雇用・育成）及び配置方針を決定
- 語学力（TOEIC800点等）を満たす事務職員の割合10%を達成

#### ② 国際教育リエゾン機構の設置

- 留学に関する情報の一元管理、日本人学生の送り出しと外国人留学生の受入れ、外国人教員団による専門教育等を実施（国際戦略推進部門、留学生支援部門、グローバル教育部門）
- 教育分野の国際化推進支援及びワンストップ機能
- 国際交流部門と教育部門の融合が可能な柔軟な組織体制

#### ③ 情報共有のための会議等の設置による国際教育リエゾン機構、国際連携研究戦略本部及び広報戦略本部との情報共有体制を確立

### 2 全学的情報共有体制の整備

- ① 国際交流委員会の機能の見直し
- ② アドホックなプロジェクトチームを利用した教員と事務の間の情報共有体制

### 3 部課を超えた支援体制の構築

- ① 学生支援部や研究国際部が参画する国際教育リエゾン機構の構築
- ② 新たな学生支援・教育施設の新設による学生と留学生への支援サービスの集約化

## 平成28年度における目標値

### 1 日本人学生の海外留学数・全学生に対する比率

(※1) 901人(10.1%) 海外留学プログラム等の開発及び留学支援を行うことにより、日本人学生の海外留学比率10%以上を目標とする。

---

### 2 外国人留学生数・全学生に対する比率

(※2) 902人(10.1%) 留学生の受入れ体制を整備するとともに、協定校との留学プログラムの開発を行い、外国人留学生比率10%以上を目標とする。

---

### 3 外国語による授業の実施回数・実施率

454回(5.0%) 外国人教員の採用、教員の海外研修及びグローバル教育力向上のFD実施等により、外国語による授業の実施率5%以上を目標とする。

---

### 4 外国人教員等の人数・割合

(※3) 295人(27.6%) 外国語教育の充実を図るために外国人教員を採用、また、日本人教員の採用においては、海外での学位取得者や通算1年以上の教育研究歴を有する者の採用を推進する。

---

### 5 教員の博士号取得者数・取得率

866人(80.9%) 教員の採用は、原則、博士号取得者とし、現職教員についても博士号の取得を推進する。

---

### 6 教員当たり学生数

8.3人 現状を維持する。

---

### 7 語学力(TOEIC800点等)を有する事務職員数・割合

45人(10.0%) 留学生や外国人教員との対応を円滑に行うため、語学力に秀でた(英語(TOEIC800点以上)や中国語(中国語検定3級以上))職員を採用するとともに、現職の職員に対する語学研修や短期海外研修の実施による能力向上を図る。

---

(※1) 博士・修士課程在籍者を含む。

(※2) 博士・修士課程、短期・研究生を含む。

(※3) 海外大学での学位取得、通算1年以上の教育研究に従事した日本人教員を含む。